

真宗大谷派における
葬儀の基本



真宗大谷派（東本願寺）
仏事サポートセンター福岡

目次

1	真宗大谷派の「葬儀」について	2
2	枕勤めについて	2
3	通夜について	4
4	「葬儀式」について	5
5	「葬儀式」の進行について	7
6	中陰について	9
7	葬儀にまつわるQ&A	10

1 真宗大谷派の「葬儀」について

真宗大谷派での葬儀とは、故人の生涯を偲ぶ中で死の事実を見つめ、誰もが無常の身を生きているという、自分自身の生死のいとなみが問われてくる大切な仏事です。葬儀前から葬儀後の仏事まで、私自身が生まれてきたことの尊さにめざめていく大切な法縁の場として、一つ一つの儀式を丁寧に執行します。

なお、真宗大谷派においての基本的な「葬儀の流れ」は、下記のとおり分類されます。

①	枕勤め	葬儀前
	通夜	
②	葬儀式	葬儀
③	還骨	葬儀後
	中陰	
	納骨	
	百ヶ日法要	

2 枕勤めについて

住職とともに、ご遺体の枕元で、ご本尊に向かって家族そろってお参りをします。生前に帰敬式を受式していない場合は、この時に住職に帰敬式(おかみそり)を行っていただき、法名を授かります。その後、住職と通夜・葬儀の日程を確認します。

準備・荘厳

葬儀場の場合

- 御名号又は御絵像本尊を奉掛する。
- 卓に三具足(香炉・花瓶・蠟燭立て[鶴亀])、香盒を準備する。
- 香盤があれば準備してもよい。
- 鶴亀には木蠟の代わりに銀蠟又は白蠟を準備する。
- 仏花は繙又は青葉を用いる。
- 布団を用意し、ご遺骸には白服を着せ、顔を白布で覆い安置する。
- 不断香を準備することが望ましい。(土香炉にて)
- 焼香を準備する。(金香炉、香盒)
- 燃香、立燭(銀蠟又は白蠟)する。
(終了後、木蠟の代わりに、銀蠟又は白蠟を用いる。)
- 勤行後に焼香する。

自宅の場合

- お内仏は平常の荘厳とする。
- 仏花は檜又は青葉を用いる。
- 布団を用意し、ご遺骸には白服を着せ、顔を白布で覆い安置する。
- 不断香を準備することが望ましい。
- 焼香を準備する。(金香炉、香盒)
- 燃香、立燭(銀蠟又は白蠟)する。
(終了後、木蠟の代わりに、銀蠟又は白蠟を用いる。)
- 勤行後に焼香をする。

※不断香…ご遺骸に敬意を示すため、合せて異臭を防ぐために用いる。
葬儀まで不断に用いることを基本とする。

勤行次第

正信偈 舌々

短念仏

回 向 願以此功德 ※同朋奉讃可

又は

小 經

短念仏留

回 向 願以此功德

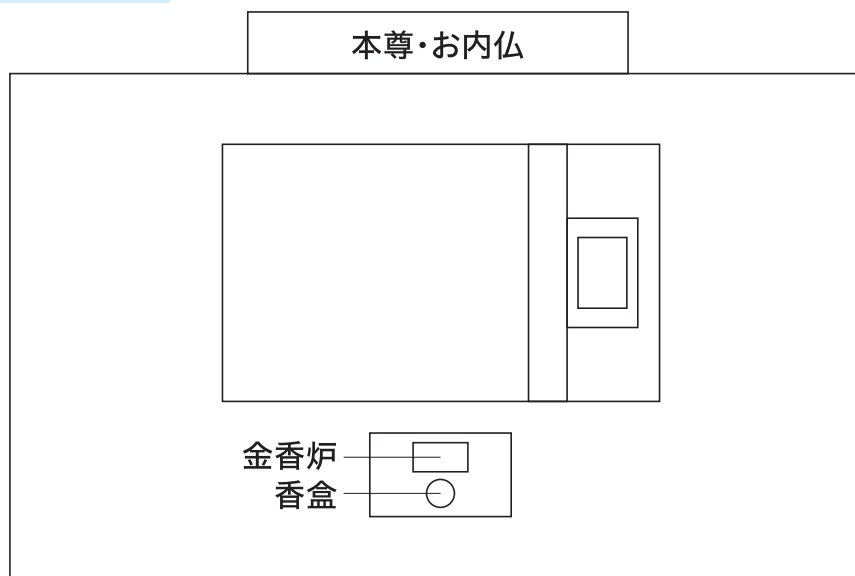
装束

墨袈裟、直綴、安静形念珠、中啓、白服

又は

間衣、輪袈裟、小念珠、白服

枕勤め勤行の図



3 通夜について

夜伽(よとぎ)ともいいます。遺族をはじめ縁のある方が夜を通して葬儀までの間、静かに故人の生前のことを追憶して、故人を見守るとというのが本旨です。つまり、儀式の間だけを通夜というのではなく、身近な人の死という現実を受け止め、深く考える一夜にしていきたいものです。

準備・荘厳

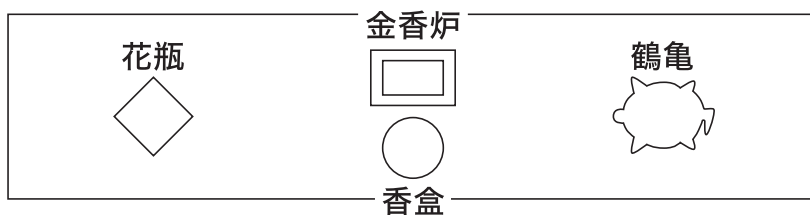
- 棺は白絹で包み、七条袈裟と横被^{おうひ}で覆う。(修多羅^{しゅたら}不要)
- 御名号又は御絵像本尊を奉掛する。
- 卓に三具足、香盒を準備する。
- 香盤があれば準備してもよい。
- 鶴亀には木蠟の代わりに銀蠟又は白蠟を準備する。
- 仏花は密又は青葉を用いる。
- 不断香を準備することが望ましい。
- 燃香、立燭(銀蠟又は白蠟)する。(終了後、木蠟の代わりに銀蠟又は白蠟を用いる。)
- 焼香の準備をし、勤行後に焼香する。

勤行次第

正信偈 草四句目下
念仏讃 淘三
和 讃 六首引(適宜)
回 向 願以此功德 ※同朋奉讃可
御 文 (適宜)
法 話

装束

墨袈裟、直綴、安静形念珠、中啓、白服



4 「葬儀式」について

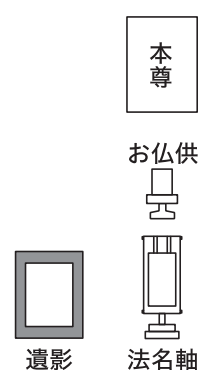
現代は、セレモニーホールが式場となることが多くなり、どのような葬儀壇にするのか、その豪華さばかりを気にされる方も多いようです。しかし、古来、葬儀は「野辺の送り」と言って、自宅から葬列を組んで葬場に向かい、用意してきた三具足（香炉・花瓶・蠟燭立て）をお飾りして野卓をつくり、お勤めをしていました。このようなことが葬儀壇の基本となるため、華美に飾る必要はありません。

大切なことは、ご本尊を中心としたお飾りであることです。遺影が中心になりがちですが、ご本尊がかくれないように注意してください。葬儀壇の中央部分にご本尊を安置し、だれもがご本尊を仰いで合掌できるように葬儀壇をお飾りください。

準備・荘厳

葬儀壇

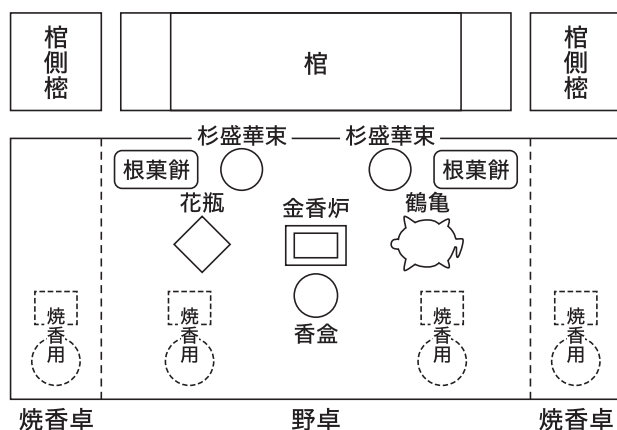
- 御名号又は御絵像本尊を奉掛する。
- お仏供は盛槽を使用して仏器に盛り、本尊の前にお備えする。
- 白木の位牌は使用せず、法名軸を使用する。
- 荘厳の中心はあくまで本尊とし、遺影を中心としない。



準備・荘厳

野卓（のじょく）

- 三具足（香炉・花瓶・蠟燭立て〔鶴亀〕）を準備する。
- 花瓶には紙花（四華）を挿す。※金銀又は白の厚紙を断切とし、竹などに巻いたもの。
- 根菓餅を一对から三対備える。
- 杉盛華束を一具備える。
- 焼香用の香炉は三具足の前に並べ、数が多い場合は別に用意した焼香卓に置いてよい。
- 棺側密一对を準備することが望ましい。
- 必要な仏具以外は設置しない。故人の縁の物などは別途台を設ける。



勤行次第

総 礼

伽 陀 先請弥陀

勸衆偈

短念仏 十遍

回 向 我說彼尊功德事

総 礼

さ そうれい
三匝鈴 (打上・打下・打上)

路念仏

三匝鈴 (打上・打下・打上)

導師焼香

総 礼 (導師合掌時)

表 白

三匝鈴 (打下)

弔詞・代表焼香等

正信偈 中読又は真読

短念仏

三重念仏

和 讃 添

回 向 願以此功德

総 礼

装 束

七条袈裟、袍裳(裳附)、表袴、本装束念珠、桧扇、白服

5 「葬儀式」の進行について

① アナウンス

葬儀では、お勤めが中心となるので、司会（アナウンス）は勤行の妨げにならないよう、最低限の文言で行ってください。また、導師の動きに合わせて進んでください。※導師の発声時にアナウンスはしない。

② 音楽・照明

式中の音楽・照明などの華美な演出は行わないでください。また、弔辞の際の音楽は必要ありません。

③ 弔詞・弔辞・弔電

式中进行するのは弔詞・弔辞のみであり、弔電の披露、親族のお別れの言葉等は式中には行いません。

④ 焼香

焼香の際は、喪主以外の名前の読み上げは必要ありません。また、参列者焼香の際は、遺族の起立は必要ありません。なお、焼香の作法は参列者各々の宗派の作法で行うものであり、指示・制限を設けるものではありません。

【儀式的進行に合わせたアナウンス例】

式次第	司会	注意点
準備	ご案内申し上げます。ご葬儀の時刻が近づいて参りました。ご着席くださいますようお願いいたします。 なお、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくかマナーモードに設定いただきますようお願いいたします。	
開会の辞	大変長らくお待たせいたしました。ただいまより法名釋〇〇俗名〇〇〇〇様のご葬儀を執り行います。	
導師入場	導師入場。 導師は真宗大谷派〇〇寺様です。 ※サポートセンター執行の場合は、「真宗大谷派東本願寺」。	
総礼	一同合掌。おときください。	「礼拝」は言わない。
勤行 伽陀 勧衆偈 短念仏 回向		
総礼	一同合掌。おときください。	
三匝鈴 路念仏 三匝鈴		

式次第	司会	注意点
導師焼香		
総礼	一同合掌。おときください。	
表白		
三匠鈴		
弔辞	(弔辞がある場合) 弔辞をいただきます。〇〇様	※冥福を祈る、安らかに眠りください、天国などの言葉は使わないよう前もって説明しておく。 ※お孫さんのお別れの言葉はできるだけやらない。
正信偈		※勤行や読経などの案内アナウンスは不要。
喪主焼香	喪主焼香	「五劫思惟之摂受」の調声後、少し間を置いてから案内。 ※「喪主焼香」程度の案内に留め、個人名の読み上げはしない。
遺族、親族、 会葬者焼香	ご遺族、ご親族、会葬者の方は続いてご焼香をお願いいたします。	喪主が焼香を終えたところで案内。 ※会葬者の焼香の時に遺族の立礼は不要。
念仏 和讃 回向	(焼香をお済みでない方はどうぞご焼香をお願いいたします。)	会葬者全てが焼香を終えたところで確認のため案内を入れてもいい。 ※お礼の言葉は不要。
総礼	一同合掌。おときください。	
導師退場	導師退場	※導師に対するお礼の言葉は不要。
弔電披露 (弔電がある場合)	(弔電がある場合) ただいまからご弔電をご披露申し上げます。 ご弔電が多数ございますので、発信者のお名前のみのご披露とさせていただきます。	
親族代表挨拶	親族代表挨拶	※必ず式中进行う。
閉式の辞	これを持ちまして、葬儀を終了いたします。	※真宗の仏事にそぐわないナレーションは入れない。
総礼	一同合掌。おときください。	

6 中陰について

◆中陰とは？

中陰とは、亡くなられた日を含め、その日から数えて四十九日間のことをいいます。

身近な人の死をととして、誰もが死すべき無常のいのちを生きている事実を受け止め、これまでの自らの生き方を見つめ直し、仏さまの教えを聞いていく大切な期間です。

◆お勤めする日は？

亡くなられて四十九日の間は七日ごとにお勤めします。

初七日	亡くなられた日を入れて7日目
二七日	亡くなられた日を入れて14日目
三七日	亡くなられた日を入れて21日目
四七日	亡くなられた日を入れて28日目
初月忌	初めて迎える命日
五七日	亡くなられた日を入れて35日目
六七日	亡くなられた日を入れて42日目
尽七日(四十九日)	亡くなられた日を入れて49日目

※葬儀当日の式中初七日(繰り上げ)は本来行いません。

◆準備・荘厳

お内仏正面を空けておくため、中陰壇はお内仏の脇に設置する。

また中陰壇は初七日から尽七日(四十九日)までの期間のみ使用し、それ以降に使用することはない。

中陰壇は家庭にある台などを使用しても構わない。

なお、中陰壇に必要なものは、三具足・法名軸・お骨である。

勤行次第

【初七日】

小 経
短念仏留
正信偈 草四句目下
念仏讃 淘三
和 讃 六首引(適宜)
回 向 願以此功德
御 文
法 話
又は
小 経
短念仏留
同朋奉讃式
御 文
法 話

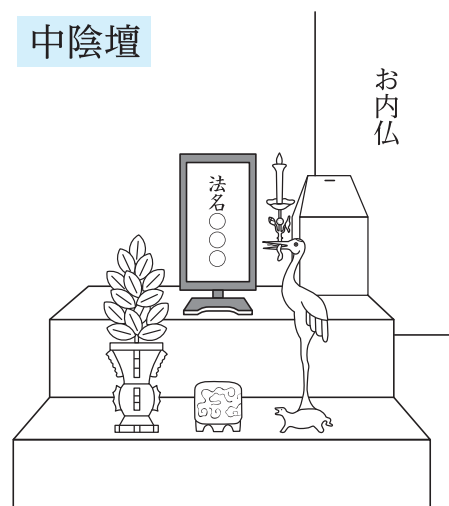
【毎七日】

願生偈
念仏讃 淘三
和 讃 三首引(回り口)
回 向 願以此功德

【四十九日】

小 経
短念仏留
同朋奉讃式
御 文
法 話

中陰壇



※遺影は中陰壇とは別に配置する。

7 葬儀にまつわる Q&A

Q 迷信〈日取り〉

A 多くのカレンダーなどに記されている「六曜」（先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口）。これはもともと中国の時刻・日の吉凶占いが室町時代に日本へ伝わったもので、それが日本独自の形となり、江戸時代から一般的に使われるようになったと言われています。

古くは、友引は「共引」と書き「共に引き合い勝負なし」、仏滅は「物滅」と書き「物がなくなる」と、勝負事の占いなどに使われていたようです。今では解釈が変化して、友引は「友を引く、友を道連れにする」と言われ葬儀を行わないようにし、仏滅は「仏も滅する、最も凶の日」と祝い事は避けられ、逆に大安は「大いに安し、万事に良い日」と婚礼などが多く行われています。

つまり、仏教の教えとは全く関係のない「迷信」なのです。日に良し悪しはありません。

Q 迷信〈清め塩〉

A 日本では、通夜や葬儀の後に「清め塩」を用いる風習があります。これは、古来より死を「穢れ」とし、不浄なるものとして恐れてきた歴史からきています。通夜・葬儀にお参りして死にふれると、自分も穢れてしまうと考え、塩で清めようとするのです。

しかし、亡くなった方を不浄なるもの、穢れたものとするのは、生きている者の身勝手な考え方であり、大切な亡き人との関係を断ち切る、とても悲しいことです。生のみに執着し死を恐れる私たちの姿が教えられます。

Q 弔辞・弔電

A 葬儀における弔辞や弔電で、「ご冥福をお祈りします」といった言葉をよく聞きます。「冥福」とは、「冥土（冥途）の幸福」を略した言葉で、「冥土」とは「死者の靈魂がたどって行く道、亡き者がさまよい行く世界」を表します。つまり「冥福を祈る」とは、「さまよい迷っている世界での幸福を祈る」ということを意味しています。しかし、真宗の教えでは、亡くなった方は、もはや迷うことなく、「浄土に還られ仏となる」と教えていただきます。

このように、冥福を祈らずにはおれない根底には、亡き人を仏さまとただけず、また自らも念仏に生きることが定まらずに、迷っている自分自身の姿があるのではないのでしょうか。

迷っているのは亡くなった方ではなく、むしろ私たちの方なのではないのでしょうか。

お問い合わせ

〒810-0054 福岡県福岡市中央区今川1-9-7

tel.092-734-0208

◎365日対応(受付時間/7:00~21:00)

公式ホームページ

<https://support.otaniha-kyushu.com/>



MAP



福岡市地下鉄空港線「唐人町駅」から徒歩5分
(駐車場をご利用の場合はご連絡ください)



真宗大谷派(東本願寺)
仏事サポートセンター福岡